



警告のニューズレター「角笛」

発行日:2015年9月発行(第65号)

発行:警告の角笛出版

価格:フリーペーパー

角笛 HP:<http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

〔目次〕

- ◎巻頭メッセージ:「再び十字架につけられる主」 エレミヤ
- ◎証:「日本がキリスト教会をリードする」 E3
- ◎お知らせコーナー:「本の紹介」「日曜礼拝&HPのご案内」

[巻頭メッセージ] 「再び十字架につけられる主」 by エレミヤ

今回は、「再び十字架につけられる主」として、このことを見ていきたいと思えます。終末の日を預言する黙示録には、終末において主が再度十字架につけられる日が来ることが預言されています。以下の通りです。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 11:8
11:8 彼らの死体は、霊的な理解ではゾドムやエジプトと呼ばれる大きな都の大通りにさらされる。彼らの主もその都で十字架につけられたのである。

このことばを考えてみたいと思えます。まず、はっきり知らなければいけないことがあります。それは主イエスが2000年前地上で十字架につけられたことは事実ですが、それ以降、肉体を持ったキリストが十字架につけられる、ということは歴史上起きていない、という事実です。

主は復活して昇天されたのですが、その主が再度、終末の日に地上に降りてきて、十字架にかかる、などということは聖書も語っていないし、事実起きてはいない、ということは、はっきりさせねばなりません。ですので、私たちは

このことばを理解するのに、肉体を持たれた主が十字架につけられる、ということを考えるべきではなく、それ以外の可能性を考えるべきなのです。そしてこのことに関連して、それ以外の可能性を考えると、以下のことばが思い起こされます。

<もう一人の助け主>

〔聖書箇所〕ヨハネの福音書 16:7
16:7 しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところ遣わします。

ここで主は、もう一人の助け主である聖霊について語られています。そして教会時代とは、肉体を持たれた主イエスの時代というより、もう一人の助け主である聖霊の時代なのです。したがって教会時代の終わり、終末の日に再度十字架につけられる主とは、肉体を持たれたイエスというより、主の霊である聖霊に関わる事柄であると理解できます。

再び十字架につけられる主 エレミヤ

<聖霊の型としてのイエスの生涯>

主はこのヨハネの福音書の中で、助け主（イエス・キリスト）及びもう一人の助け主（聖霊）という表現を通して、ご自分と聖霊の働きを対比的に語っています。確かにこれらの二者を聖書は対比的に記載しているのです。したがってこのようなことが考えられます。福音書に記された主イエスの生涯、それは確かに歴史的に実際に起きた主イエスの生涯の正確な記録なのですが、それのみにとどまらず、それはもう一人の助け主である聖霊の未来における働きや歴史を預言したものである、そうも理解できる、と思われるのです。

肉体を持たれた助け主であるイエスは、盲人の目を開け、耳しいの耳を開き、また、足なえを歩けるように癒しました。同じようにもう一人の助け主である聖霊は教会時代において、我々の霊の目を開き、耳を開き、信仰の歩みのない者を癒して歩けるようにしてくださるので

です。主イエスが福音書で行われた助け主としての癒しや、人々を助けた記述はそのまま未来に関する預言でもあり、もう一人の助け主である聖霊が教会時代においてどのようにして我々を助け、救い、力付けてくださるかを前もって語り、預言した記述として理解できるのです。

さらにもう一つのことがあります。それは福音書に記されたイエスの生涯の歴史、それはナザレのイエスの生涯を正確に記したのですが、しかしそれにとどまらず、それはまた、将来の教会時代において聖霊が受ける扱い、歩み、歴史を預言したものである、そう理解できるのです。

考えてみましょう。助け主であるイエスの生涯はどのようなものだったのでしょうか？イエスの働きは群衆の熱狂的な歓迎から始まっています。4000人の給食、5000人の給食の話から伺えるように大勢の群衆が群れをなして、イエスの話を聞きに群がり、その中でイエスはいわば、カリスマ的な人気を博していたのです。

しかし、主の働きの後半に状況は変化します。律法学者、パリサイ人に扇動された群衆はその態度を一変させます。イエスをいかさま師であるペテン師であるとして、熱狂的に非難するようになったのです。十字架につける、と熱狂的に叫ぶ群衆の非難の中で、イエスは何の罪も無いのに十字架につけられ、エルサレムで命を失ったのです。彼は罪人、犯罪人の一人に数えられ、汚名の中ですべての評判を失って命を絶られたのです。

<聖霊の歴史はイエスの歴史に重なる>

さて、助け主であるイエスの生涯はもう一人の助け主である聖霊の生涯、歩み、教会時代における歴史を暗示し、預言するものと理解できます。すなわち、当初は教会に歓迎して迎えられた聖霊の働きも長い教会時代を経て、扱いが変わります。終末の背教の時代の時には、聖霊もいずれ教会から追い出され、取り除かれ、最後にはそれこそ、十字架につけられることが再現する、と理解できるのです。そして後ほど見ますが、多くの聖書のみことばは、そのような日が来ることを暗示し、預言しているように思えます。

教会時代における聖霊の歴史を見てみましょう。ペンテコステの日を下ったもう一人の助け主である聖霊の霊は当初、初代教会を初めとした教会の中で大歓迎され、その働きを始めました。もう一人の助け主である聖霊こそ、教会の働きの基であり、その助けの中で、教会時代は進んできました。祝福の中を歩んできたのです。



同性婚を祝福する牧師・背教は進む

再び十字架につけられる主 エレミヤ

しかし、教会時代も終わりに近い、ここ1～2世紀の間、少しずつ教会の雰囲気、状況が変わってきました。悪霊の働きが教会の中に入ってきたのです。現在ペンテコステ系の教会でブームになっている聖霊の第三の波、トロント、ペンサコーラのリバイバルなどは、明らかに神の霊というより、悪霊のリバイバルなのです。

<悪霊を縛る>

そのムーブメントの中で、しきりに「悪霊を縛る」ということが言われています。このことは、私の考えが杞憂でないのなら、いずれ悪い方向へ行くだろうと思われれます。何を言っているのかと言うと、今このリバイバルに浮かれて、悪霊を縛っている（つもりの）人々は、いずれ悪霊を縛る、と言いながら、他でもない聖霊を縛る働きに入っていくように思われるのです。聖書は「強い人を縛る」ことに関して以下のように述べています。

[聖書箇所]マタイの福音書 12:29

12:29 強い人の家には行って家財を奪い取ろうとするなら、まずその人を縛ってしまわないで、どうしてそのようなことができましょうか。そのようにして初めて、その家を略奪することもできるのです。

強い人が守っている家に押し入るにはまず、強い人を縛ることにに関して述べているのです。このことは主のときに成就しています。イエスのおられた時代、イスラエルの神の民の家は、強い人であるイエスに守られていました。それで神の民の家に押し入ろうとしたサタンはまず、強い人イエスを縛ったのです。以下のことば通りです。

[聖書箇所]マタイの福音書 27:2

27:2 それから、イエスを縛って連れ出し、総督ピラトに引き渡した。

このようにして強い人イエスは、サタンの画策の中で縛られ、その後、この神の民はサタンの惑わしに席卷されるようになります。彼らは惑わしの中で自ら支配者であるローマの国に敵対し、反逆し、その結果、ローマの軍隊に攻められ、自滅してしまったのです。エルサレムの

人々は最後の一人まで、ローマにより滅ぼされてしまったのです。彼らは彼らを守ってくださった強い人であるイエスを縛り、結果サタンの惑わしの中で自滅してしまったのです。

同じ意味合いで、今ペンテコステ系の教会で盛んに行われている「強いものを縛る、悪霊を縛る」との行いは、いずれ背教の教会の中で誤用されます。それは他でもない聖霊を縛る働きに移行していくでしょう。以下のヘブル書のことばは、その日を暗示しているかのように思えます。

[聖書箇所]ヘブル人への手紙 10:29,30

10:29 まして、神の御子を踏みつけ、自分を聖なるものとした契約の血を汚れたものとみなし、恵みの御霊を侮る者は、どんなに重い処罰に値するか、考えてみなさい。

10:30 私たちは、「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする。」、また、「主がその民をさばかれる。」と言われる方を知っています。

ここには、「神の御子を踏みつけ、自分を聖なるものとした契約の血を汚れたものとみなし、恵みの御霊を侮る者」に関して預言的なことばが書かれています。このことは、今のペンテコステ系の教会で行われているリバイバル運動の中で成就するようになるでしょう。

その日、背教の教会のクリスチャンたちはしるしと不思議に惑わされ悪霊を受け入れ、結果判断力を失い、他でもない聖霊を悪霊と呼び、縛るようになるのでしょう。

「神の御子を踏みつけ、自分を聖なるものとした契約の血を汚れたものとみなし、恵みの御霊を侮る者」

とは、そのような勘違いしたクリスチャンを表現することばと理解できます。

再び十字架につけられる主 エレミヤ

<二人、三人と分れ争う>

聖霊が地上に下ったら教会はどのような状態になるのでしょうか？みな、神の霊に満たされ、ハッピーハッピーな教会になるのでしょうか？どうもそうでもないようです。主は聖霊の火が下るとき、地に分裂、争いが起きることを預言されました。以下の通りです。

[聖書箇所]ルカの福音書 12:49-53

12:49 わたしが来たのは、地に火を投げ込むためです。だから、その火が燃えていたらと、どんなに願っていることでしょう。

12:50 しかし、わたしには受けるバプテスマがあります。それが成し遂げられるまでは、どんなに苦しむことでしょう。

12:51 あなたがたは、地に平和を与えるためにわたしに来たと思っているのですか。そうではありません。あなたがたに言いますが、むしろ、分裂です。

12:52 今から、一家五人は、三人がふたりに、ふたりが三人に対抗して分かれるようになります。

12:53 父は息子に、息子は父に対抗し、母は娘に、娘は母に対抗し、しゅうとめは嫁に、嫁はしゅうとめに対抗して分かれるようになります。」

ここで主は聖霊の火が地上に下るとき、それは平和や一致をもたらすのではなく、逆に分裂や争いをもたらすことを語りました。このことは事実です。ペンテコステの日に下った聖霊は当時の神の民であるユダヤ人たちの間に平和や一致というより、分裂と混乱を起こしました。十二使徒を始めとした人々はこの霊を神からの霊として受け、祝福を受けましたが、パリサイ人や律法学者たちはこの霊を受けず、異端、神に背くものとして、使徒たちを迫害しました。確かに火が下ったために、神の民の間で分かれ争うようになったのです。その中でステパノの殉教が起きました。

このことは終末の日にも起きてくるでしょう。終末の日にも神からの霊が下るようになるでしょうが、しかしその結果は神の民である新約の教会内の分裂と内紛と争いです。

以下のようにその戦いの日は預言されていま

す。

[聖書箇所]ヨハネの黙示録 6:3,4

6:3 小羊が第二の封印を解いたとき、私は、第二の生き物が、「来なさい。」と言うのを聞いた。

6:4 すると、別の、火のように赤い馬が出て来た。これに乗っている者は、地上から平和を奪い取ることが許された。人々が、互いに殺し合うようになるためであった。また、彼に大きな剣が与えられた。

ここに書かれている「火のように赤い馬」とは、ペンテコステの日に下った聖霊のように、終末の日に下る神の霊と思われます。しかしその霊が下った結果は平和でも一致でもありません。逆に分裂と争いと、そして殺し合いなのです。

なぜそうなるのか？それは片方が聖霊であっても、もう片方は悪霊なので、その間には、憎しみや、そして殺意まで起きてくるのです。以下のことばもその日を預言していると理解できます。

[聖書箇所]マルコの福音書 13:12,13

13:12 また兄弟は兄弟を死に渡し、父は子を死に渡し、子は両親に逆らって立ち、彼らを死に至らせます。

13:13 また、わたしの名のために、あなたがたはみなの方に憎まれます。しかし、最後まで耐え忍ぶ人は救われます

聖霊が下るゆえに分裂が起き、教会内で兄弟が兄弟を訴え合うようになるのです。ですから聖書は終末の日において、聖霊を受けたクリスチャンと悪霊を受けたクリスチャンとの深刻な衝突、さらに聖霊を受けたクリスチャンが訴えられたり、逮捕される日、苦難の日を預言しているのです。以下の預言の成就の日です。

[聖書箇所]マタイの福音書 10:25

10:25 弟子がその師のようになれば十分だし、しもべがその主人のようになれば十分です。彼らは家長をベルゼブルと呼ぶぐらいですから、ましてその家族の者のことは、何と呼ぶでしょう。

再び十字架につけられる主 エレミヤ

<聖霊は追い出されていく>

このような霊の争いや訴え合いを通して、いずれ聖霊は背教の教会から追い出されていくようになります。以下のことばの通りです。

[聖書箇所]Ⅱテサロニケ人への手紙 2:6,7
2:6 あなたがたが知っているとおりに、彼がその定められた時に現われるようにと、いま引き止めているものがあるのです。
2:7 不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。

ここには、背教が起きること、すなわち教会がキリストの教えに背く日が来ることが預言されています。それと共に反キリストを「**引き止めているもの**」すなわち聖霊が「**取り除かれる時**」が来ることが預言されているのです。あたかも、酔っ払いでギャンブル好きなダメ亭主が賢い奥さんを追い出し、益々墮落生活に深入りするようなものです。背教の教会は最後には本末転倒し、最後のとりでとなっていた聖霊を自ら追い出すようになるのです。結果教会は益々反キリストの惑わしに入っていくのです。

繰り返しますが、終末の日に聖霊は取り除かれ、教会から追い出され、排除されるようになるのだということを理解してください。そのようにみことばは語っているのです。そして聖霊が追い出される、ということは、あの日の再現でもあるのです。あの日は？すなわち主イエスが神の民の都であるエルサレムを追い出され、都の外で群衆の非難の中で十字架の死を迎えた日とまさに重なるのです。さて、聖霊が終末の日に教会から追い出されることに関しては、以下のことばもそれを語ります。

[聖書箇所]ヨハネの黙示録 3:20
3:20 見よ。わたしは、戸の外に立ってたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところにはいって、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

7つの教会の最後の教会、終末の教会であるラオデキヤにおいては、もう主は神の家である

教会の中にはおらず、外に追い出されています。そして外から戸をたたいておられるのです。この外に追い出される主の姿、それは最後まで反キリストの侵入を防ぎ、最後には神の民により悪霊扱いされ、縛られ、「**取り除かれる**」聖霊の姿そのものなのです。ここで教会時代の7つ目の教会、ラオデキヤ教会の門をたたいている主は、肉体を持たれた主を指すではありません。なぜなら教会時代の終わりには肉体を持たれた主は登場しないからです。そうではなく、これは追い出されながらも、なおかつ終末の日に背教の教会の戸をノックし続けるイエスの霊である聖霊の姿をあらわすと理解したほうが正しいのです。

<再び十字架につけられる主>

このような背教の日を経て最終的には、教会はイエスを再度十字架につけるような冒険に入っていくと理解できます。そしてそれを描くのが冒頭の黙示録のことばなのでしょう。

かつての日、ナザレのイエスは旧約の神の民、ユダの中心地であるエルサレムで迫害され、十字架につけられました。そして歴史は再現し、新約の終わりにおいて主の霊、聖霊は追い出され、十字架につけられるようになるのです。それゆえ神の怒りの中で、宮である教会は崩壊し、反キリストに席卷され、背教のクリスチャンには666の獣の刻印が押されるようになります。これらの災いが教会に臨むのは故無いことでも、理由の無いことでもないのです。教会はその背教の当然の結果として、神の怒りの中で獣に席卷されていく、この明確な未来を正しく見なければなりません。



同性愛の集会に反対して逮捕されるRepent Americaのクリスチャンメンバー:11名のメンバーは皆、最大47年の懲役、9万ドルの罰金を求刑されている。

日本がキリスト教会をリードする E3

今回は土曜日の弟子の集会のおすすめで学んだことについて話したいと思います。皆さまもご存知のように、キリスト教は西洋から来たものですし、現時点において日本はクリスチャン人口がとても少ないので、日本がキリスト教会を引っ張っていくなんてことは信じられないかもしれませんが、しかし今回の聖書箇所やメッセージを通して、そうではない、いずれ日本がリードしていく、ということ当レムナントキリスト教会では理解しましたので・・・そして、ぜひ知っていただきたいと思いましたが、お話したいと思えます。また、皆さまとも無縁な事柄では無いと思えますので、もし興味がありましたら、お読みください。以下、エレミヤ牧師によるメッセージです。

〔聖書箇所〕創世記49:1

49:1 ヤコブはその子らと呼び寄せて言った。「集まりなさい。私は終わりの日に、あなたがたに起こることを告げよう。

「ヤコブ」はのちに「イスラエル」と呼ばれます。その後、12部族になっていきます。この箇所では、それぞれの部族の預言が語られています。そして今回は、「ユダ」について見ていきたいと思えます。

〔聖書箇所〕創世記49:8,9

49:8 ユダよ。兄弟たちはあなたをたたえ、あなたの手は敵のうなじの上であり、あなたの父の子らはあなたを伏し拝む。

49:9 ユダは獅子の子。わが子よ。あなたは獲物によって成長する。雄獅子のように、また雌獅子のように、彼はうずくまり、身を伏せる。だれがこ

れを起こすことができようか。

ユダのシンボルは「獅子」です。ちなみに天皇家はユダの末裔です。また、「獅子」ということばですが、日本のあらゆることは「獅子」のようです。たとえば、文明開化をきっかけに、あっという間に日本は成長しました。でも、「うずくまり」とありますように、そういった一面もあります。（戦争で負けたり、原発事故が起きたり、です。）また、今現在日本はキリストにあつての戦いに現状は服していません。けれども聖書の預言によるなら、いずれ本来の獅子の働きに戻ります。勇士として立ち上がる時が来ます。それは主の時に起きると思われま

〔聖書箇所〕創世記49:10

49:10 王権はユダを離れず、統治者の杖はその足の間を離れることはない。ついにはシロが来て、国々の民は彼に従う。

「王権はユダを離れず」とありますように、12部族の王族は「ユダ」にありました。そして、「国々の民は彼に従う」と書かれていますように、リーダー的な立場に立ちます。ちなみに黙示録には「もうひとりの御使いが、生ける神の印を持って、日の出るほうから上って来た。」とあります。その時に、「王権はユダを離れず」のみことばが成就します。また、モンゴル、中国、韓国、台湾、日本は12部族です。そして、リーダーは日本から立ちます。つまり日本がキリスト教会のリーダーになるのです。「杖」は教師のたとえです。「シロ」は「メシヤ」のことで、このことはキリストの初降臨に成就しました。つまり終末の聖霊の働きは日本を通して来る、ということです。

日本がキリスト教会をリードする E3

〔聖書箇所〕創世記49:11

49:11 彼はそのろばをぶどうの木につなぎ、その雌ろばの子を、良いぶどうの木につなぎ。彼はその着物を、ぶどう酒で洗い、その衣をぶどうの血で洗う。

「ろば」も聖霊のたとえです。「ぶどう」も「聖霊」に関してのことばです。「着物」は「義」「正しさ」のことを言われています。ですから「彼」すなわち「ユダ」（日本）は、罪や行いを聖霊によってきよめるのでしょうか。行いが聖霊によって、正しくなっていくのでしょうか。この箇所はそのようなことを言われているのでしょうか。

〔聖書箇所〕創世記49:12

49:12 その目はぶどう酒によって曇り、その歯は乳によって白い。

「ぶどう酒」も「聖霊」のたとえで、「乳」は「みことば」のたとえです。そしてこのことは、終末の日本に関する預言であると言えます。つまり、ユダ（日本）が聖霊やみことばに関する働きをする、ということ言われています。ですので、現状だけを見て奉仕するのではなく、日本にこういう日が来るというのを見越して奉仕したいと思います。

いかがでしょうか？日本がユダ族の獅子であること、そしていずれ世界のキリスト教会をリードする立場に回っていくことを多少なりともご理解いただけましたでしょうか？

余談ではありますが・・・エレミヤ牧師が、「現状だけを見て奉仕するのではなく、日本にこういう日が来るというのを見越して奉仕したいと思います。」とされていますよう

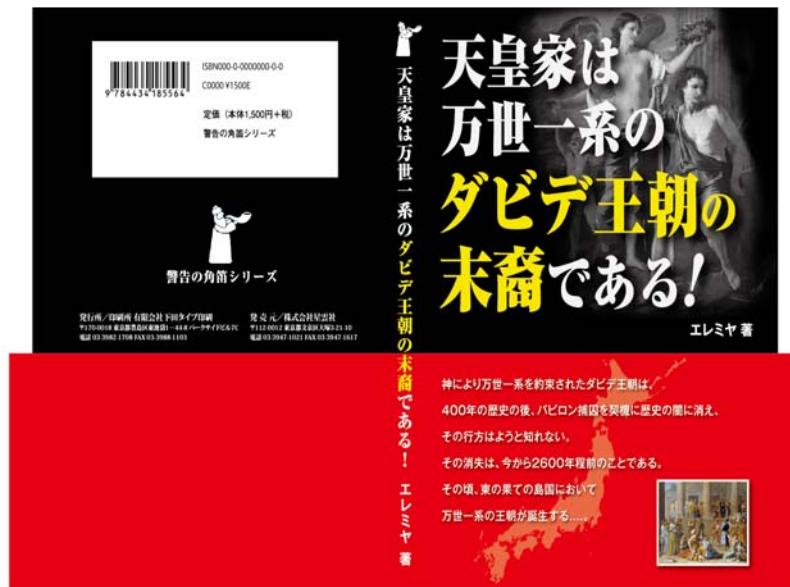
に、当レムナントキリスト教会ではそのことに先駆けて、ノンクリスチャン向けに「月刊バイブル」というものを発行して、まだ神さまやイエスさまを知らない人々に呼びかけております。ニュースレターのノンクリスチャンバージョンというスタイルではありますが、毎月1000部ほど印刷してポストに投函したり、親族や友人や知人に送ったりしています。神さまの時に日本がいずれ起き上がり、キリストに立ち返っていくということを想定して行っています。このことがいつか神さまに用いられて、一人でも多くの方が救われるように願いつつ働きに励んでおります。たしかに現時点だけを見るなら、そのような日が来ることは今ひとつピンと来ないかもしれませんが、聖書で預言されている以上、必ずそういう日が来るのでは？ということ当教会では理解していますし、また、信じていますので話をさせていただきました。よろしければ、このようなこともご理解いただけると幸いです。



今は霊的に眠っている獅子（日本）が、いずれ全世界のキリスト教会をリードする。

お知らせコーナー

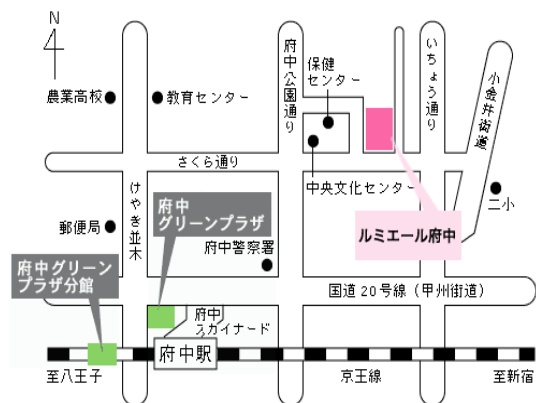
●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



● 定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。
● 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255
● mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30
午後 14:00-16:00
場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館
(tel:042-360-3311)
1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。
どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>